



「みどりの学校ファーム」の取組



八潮市立八條北小学校の取組について

<実践の概要>

- 栽培活動には、「豊かな心の育成」「食育」「農業」「地域社会との関わり」の4つの観点を設け、取り組んでいる。
- 学校ファームを推進するために、JAや園芸店などの諸機関、農業をしている地域の方や学校応援団、PTAなどの支援が重要であると感じた。
- 子供たちは、食物を育て収穫し、食べる活動を通して、食べ物を大切にする気持を高めることができた。
- 農園の借用や、校内の農園確保など、恵まれた環境を生かして取り組んできた。児童は、草花や野菜への水やりで勤労的な気持が高まったり、友達と声を掛け合い、協力することで、協力的な態度が育まれたり、多くの体験活動から様々なことを学ぶことができた。今後も、地域の方や保護者の協力をいただき、一体となって推進していく。

<Q&A>

- Q) ファームの維持、管理の有効な手立てには、どのようなものがあるのか？
A) 小さな組織（子供たち、教職員）では、日々の水やりや草取りを行い、大きな組織（地域、行政等）では、専門性を生かした支援をいただいている。両方の連携により充実した運営となっている。
- Q) コーディネーターとの日程調整や連携は、どのように行っているのか？
A) 年間栽培計画や目標、活動内容等について詳細を示した計画を立て、協力を得られるようにしている。普段から管理職が地域に出向き、対話を通して信頼関係を深めたり、学校便りを通じて地域に学校の教育計画を知らせたりするようにして、連携を深めるように努めている。

【指導講評】 春日部農林振興センター地域支援担当

- 自分たちで育てた農作物を収穫し、自ら調理することで、農業の大切さや農作物への理解がより深まった。また、学校ファームの取組が、自然や命の大切さを学ぶことにつながっていた。
- 学校応援団との連携や八條中学校との交流、地域の農家の方に協力を得ながらの活動を推進することにより、子供たちに家族や地域との絆が十分に理解されるとともに、協力的な態度が育まれている。
- 学校ファームの取組をより充実させるためには、農作業体験にとどまらず、収穫した農産物を調理・加工するところまで、体験の幅を広げることにより、学習効果をより一層高めることが期待できると感じた。そして、みどりの学校ファームを継続したものとするには、学校、地域、行政が一体となり、子供たちの農業体験活動を支援することが大切である。
- 学校ファームの取組を充実させることで、子供たちの農業への理解を促し、少しでも農業や食物に関心を持つ子供たちが増えることを期待したい。